



## 生活科・総合的な学習の時間について 教科とは違う良さ!!

これからの激しく変化する予測困難な時代（VUCAの時代）において、小学校教育における「生活科」と「総合的な学習の時間」は、教育課程の「要（かなめ）」としてますます重要性を増しています。単に知識を暗記するだけでなく、自ら課題を見つけ、主体的に解決する「探究的な学習」の基盤がここにあるからです。それぞれの重要性と、これからの世の中における役割について整理しました。

### 1 なぜ今、探究的な学習が重要なのか？

これからの世の中は、生成AIの普及やグローバル化により、「正解のない問い」に立ち向かう力が必要になります。文部科学省の学習指導要領が目指す「生きる力」の核となるのが、探究的な学習プロセスです。

【探究のサイクル】課題の設定 → 情報の収集 → 整理・分析 → まとめ・表現

このサイクルを繰り返すことで、知識を社会でどう活かすかという「生きて働く知恵」へと昇華させていきます。

### 2 低学年の土台：生活科の重要性

生活科は、3年生以降の「総合的な学習の時間」や各教科の探究へつながるすべてのスタートラインです。「具体的な体験」を通じた学び教科書を開くだけでなく、身近な自然、地域の人、社会と直接関わることで、「おや?」「どうしてだろう?」という知的な気付きの芽を育てます。主体性と自己肯定感の育成自分で野菜を育てたり、町の探検をしたりする中で、「自分でできた!」という達成感を得て、学びに向かう原動力を培います。

### 3 中高学年の発展：総合的な学習の時間の重要性

生活科で育んだ「気付きの芽」を、より深い「探究」へと発展させるのが総合的な学習の時間です。教科横断的・総合的な学び国語で培った言語能力、算数のデータ処理、社会や理科の知識など、各教科で学んだバラバラの知識を「総動員」して、現実のリアルな課題（環境、福祉、地域活性化など）に挑みます。非認知能力（社会性・協働性）の育成友達と話し合い、多様な意見に触れながら協働して一つの課題を解決していくため、これからの世の中で最も求められる「チームで働く力」や「コミュニケーション能力」が身につきます。情報活用能力（ICTリテラシー）のアップデートタブレット端末（GIGAスクール構想）を活用し、ネットで調べ、パワポでまとめ、プレゼンする一連のスキルを、実践を通して学びます。

### 4 これからの世の中における2つのつながり

学習指導要領では、生活科から総合的な学習の時間への「なめらかな接続」が重視されています。ステージ学年主な学びの対象育つ力生活科小1～小2身近な人々、社会、自然身の回りのことへの愛着、気付き、自立の基礎総合的な学習の時間小3～小6地域社会、国際理解、環境、情報など課題解決能力、論理的思考力、他者との協働性、本質的な重要性算数や国語が「道具（スキル）を磨く時間」だとするならば、生活科や総合的な学習の時間は「磨いた道具を使って、実際に現実の世界を切り拓いてみる時間」です。この両輪が揃うことで、初めて子どもたちは「未来の創り手」へと育っていきます。

## 未来を拓く「探究」の学び：生活科から総合的な学習の時間へのつながり

知識の暗記ではなく、自ら問いを立てて解決する「探究的な学習」が、生成AI時代の「生きる力」となります。

低学年の「生活科」で育んだ気付きを、中高学年の「総合的な学習の時間」でより高度な社会課題の解決へとつなげていく、一貫した学びのプロセスを解説します。

### 【低学年】生活科：探究の土台を築く（小1・小2）



### 【中高学年】総合的な学習の時間：社会を切り拓く（小3～小6）

